

SOMPOデータ・プラットフォーム

- グループにおけるビッグデータへの取り組み -

SOMPOホールディングス株式会社 チーフ・データサイエンティスト 中林 紀彦



保険のその先へ、挑む ~ 大いなるピボット ~



デジタル戦略が中期経営計画の主軸の1つ

Digital Vision

来たるべき「Digital Disruption」の時代に対して、 自らが積極的にデジタルトランスフォーメーションを仕掛け、 デジタル対応力をコアコンピタンスとした「真のサービス産業」 のグループとなることを目指します。

ビジネスモデル の進化

環境変化に 挑戦し続ける文化

デジタル戦略

顧客接点強化 品質向上 事業間の連携による トータルサポート

> 保険を超える サービスの拡充

健全性を伴った 成長機会の実現

規律ある成長投資

成長基盤の構築

- 国内損保事業の収支改善
- 国内損保事業の着実な成長
- 海外M&Aによる拡大と PMIの経験値向上
- 介護事業の事業基盤獲得

前中期経営計画

各事業の優位性の 確立・強化

各事業の優位性を高めて着実に成長

新中期経営計画



Silicon Valleyスタートアップのスピードと柔軟性

SOMPO Digital Labの誕生



CDO (Chief Digital Officer)

シリコンバレーでの豊富な 経験を持つ人材を招聘

シニアアドバイザー

ビッグデータの世界的権威である トーマス・H・ダベンポート氏が就任

新しい ビジネス モデル

デジタルネイティブ向けマーケティング

デジタル活用の新商品・サービス開発など

顧客接点の変革

スマホアプリ(ポータブルスマイリングロード) ウェアラブル端末(Fitbit社)の活用など、 ビジネスモデル の進化

新たな事業領域の創造など

SOMPO デジタルラボ シリコンバレー



既存事業

業務効率化の進展

コールセンター等で人工知能(AI)導入等

2016年~2020年

デジタル戦略部(東京)



SOMPO Digital Lab Tokyo





SOMPOデータ・プラットフォーム ~事業戦略にもとづくデータ戦略~



ビッグデータの種類に応じたビジネスへの適用

事業実装・実用性レベル

2017~2018

2019~

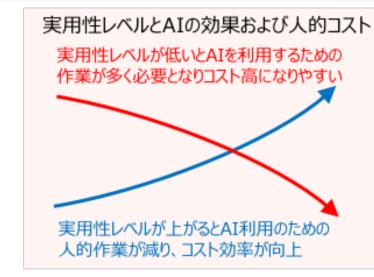


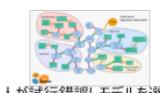


低



画像解析





人が試行錯誤しモデルを選択



2017

2017

2019~

自動化へ向かう



1枚の画像を分類



対象領域の特定と分類 大きさの推定





2017~2018

マイクの近くでハッキリ話す お客様の発話を復唱



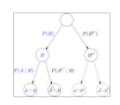
マイクから離れた複数人での会話 話者を分離して発言内容を分類



完全テキスト化



自然言語



決定木による分岐 キーワード検索



限られたシーン 単一文の理解 精度の高いQA



長文の理解 文章の要約



SOMPOデータ・プラットフォーム構築

最先端のプラットフォームで、世界に伍していく

データ サイエンティスト ● データの種類(自然言語、画像)・分析対象(健康、移動)に 精通した精鋭部隊を編成

AI・アルゴリズム

● 未来予測に関するAIに特化し、効率化に関する部分は外部の汎用的なものを活用

データカタログ

● 社内外の利用可能なデータをカタログ化した **巨大な仮想データベース**を構築

データソース

● 社内のみならず、他企業とのアライアンス、オープンデータまでを網羅したデータセットを用意し価値あるデータを囲い込む



プラットフォームの基本方針

最先端のアーキテクチャを採用し競争力を持つ

() 柔軟性とスピードを優先した**内製化**

技術要素を分割し**Pluggable(脱着可能)**にする



ビッグデータ・AIの実験が自由に出来る環境

PoC実験環境(Digital Sandbox)は、デジタル戦略部で実施するPoCで、新技術やアルゴリズムの開発・検証を行う環境として使用

<Stage1> Research/ Idea

デジタルラボ

デジタルラボで市場調査と 業務への活用案を検討し ます。

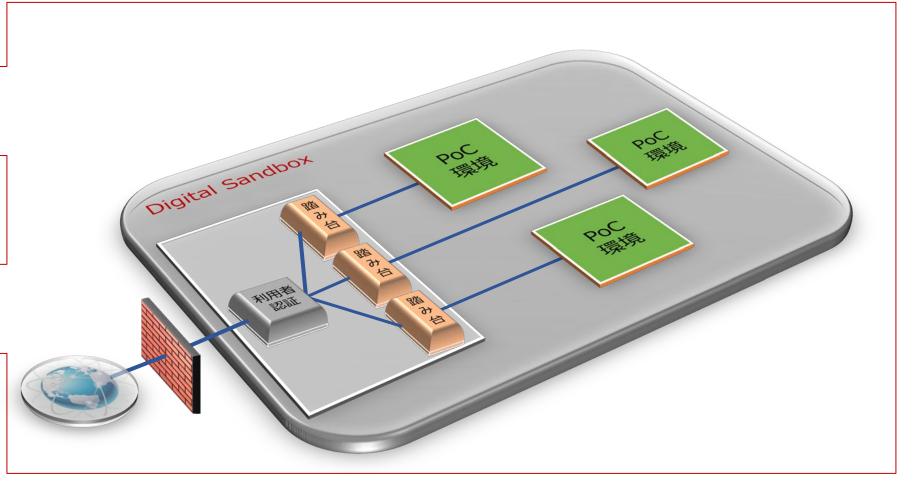
<Stage2> Planning デジタルラボとオーナー部で要件定義とトライアルの計画立案を行い、R&D審査で承認を得ます。

<Stage3> Trial

システムを構築し、実際の 利用状況の中で有効性 を検証します。

品 ー 本開発

各事業のIT部門の承認 のもと、技術移転を行い 別環境で本開発を行う。



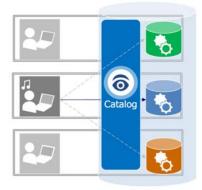


データカタログによる仮想統合データベース構築

整備すべきデータと、外部連携で囲い込むデータを洗い出す

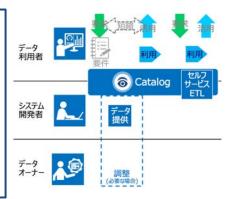
これまで困難だった保有データの可 視化と有効活用

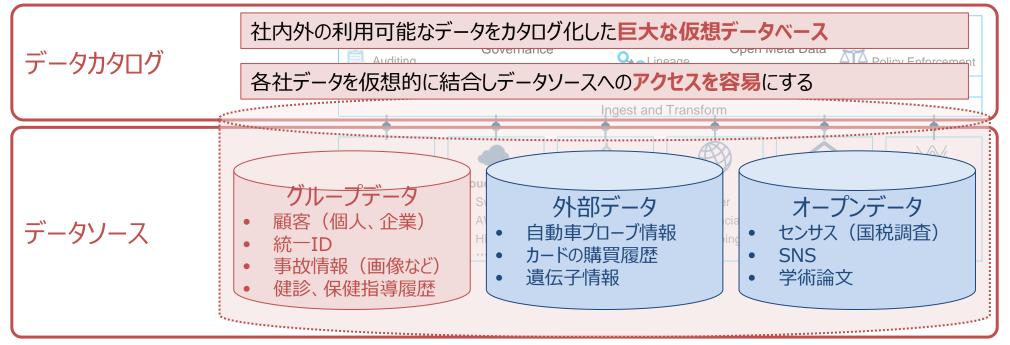
- カタログ情報による組織横断的なデータの一覧性が提供されるため、 他部門のデータの利用が容易になる
- カタログ情報を検索する事で、データ利用者は目的に合った最適な データを自分で見つけて利用する 事ができる



データ活用のスピードと柔軟性 が向上

- 新規データは、基本的に加工せずに取り込まれるため、 要求から利用開始までの時間が短縮される
- カタログ上のメタデータを利用 し、必要なデータの取捨選択 ができる

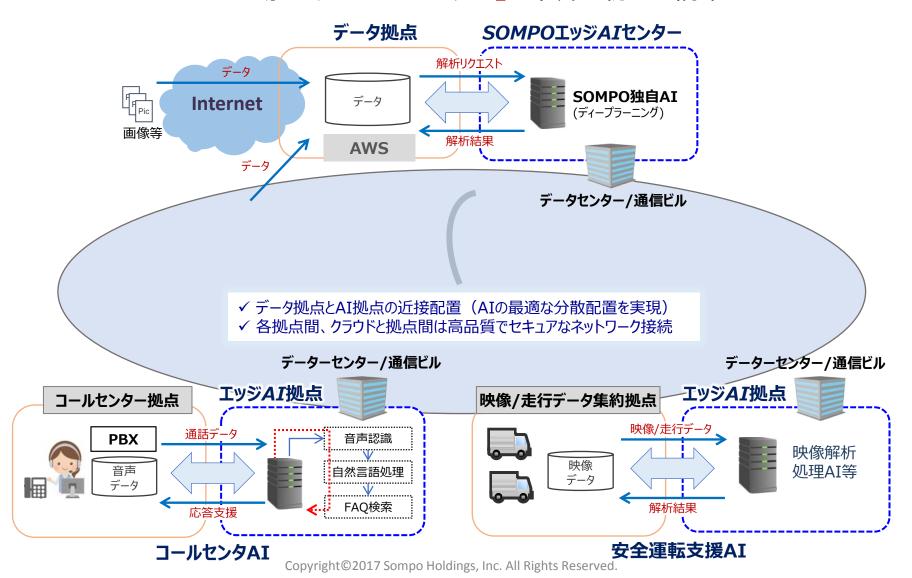






グループ専用のAI工場を構築

グループ各社で収集したデータをリアルタイムに解析し、瞬時に経営に活かすための A I 工場「エッジ A I センター」を業界で初めて構築





最新の深層学習を応用したAIを実装

人工知能(AI)を活用して、タブレット端末のカメラ機能で撮影した自動車保険証券および車 検証の内容を自動で読み取り、読み取った内容を保険料計算システムへ転送することで、お見積り からご契約手続きまでシームレスかつペーパーレスで完了できるアプリ『カシャらく見積り』を開発







SAIS®N もっと安心して、もっと楽しくクルマを運転できる

IoTデバイスを活用した**新サービス「つながるボタン」**

運転中は、**運転特性を計測**しドライ ブレポートを提供することで安全運転 をサポート

事故・トラブル時に「つながるボタン」を 押すことで、位置・契約情報が連携 され、必要なサポートをスムーズに受 けることが可能に

事故時の衝撃を感知した場合、「A LSOK事故現場安心サポート」な どトラブルの現場で必要となるサービ スを提供





必要となる人材を育成



データは素材、AIは道具に過ぎない

料理 = 成果





調理器具 = 人工知能



素材 = ビッグデータ, IoT





必要となる人材像

ビジネスとデータサイエンスの両方を理解する人材

- **ビジネスの理解**がデータの理解につながる
- 営業、マーケティング、事業戦略などビジネスの経験者
- データの"手触り感"
- この数字がどういうオペレーションで生まれたのか?
- この意思決定には、データの精度は50%で十分
- 最新**分析技術**や**テクノロジー**の理解
- 医師免許 + Deep Learning
- A級ライセンス + Deep Learning



必要な人材を自社で育成して採用

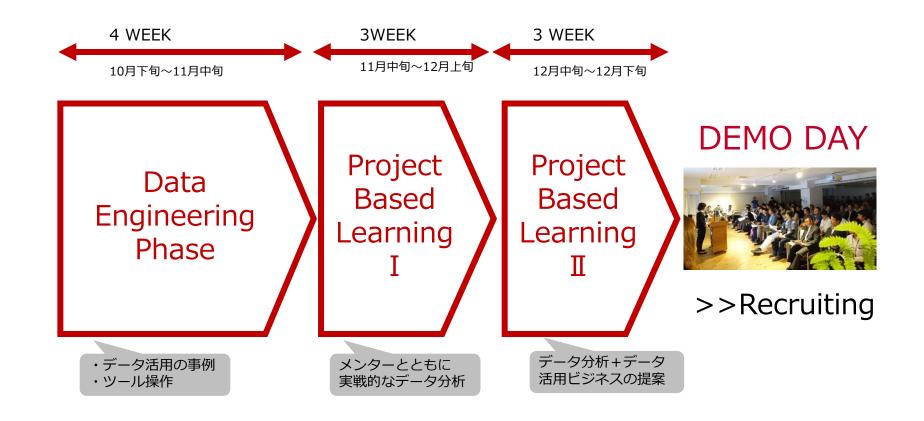
ビジネスを理解する人材へのデータサイエンス教育

- 2017年4月から7月に、第1回データサイエンティスト特別養成コース「Data Science BOOTCAMP」を開講しました。今後、年2回のペースで実施していき ます。
- 約3か月間の集中育成プログラムでは、ディープラーニングなどAIに必須のコンテンツを準備する予定であるほか、一流メンターの助言のもと、SOMPOホールディングスが実際に保有する自動車の走行データや健康関連データなどのビッグデータを利用し、実践的なデータ分析からデータ活用ビジネスの企画 提案まで行います。



Data Science BOOTCAMPの概要

春(4月~7月)と秋(10月~12月)の2回開催





受講風景





第1回 BOOTCAMPの成果

"3つの果実"を獲得

- SOMPOグループのデジタル戦略に興味を持ち、入社の意向を持つ人材の獲得
- バイタルデータや走行データを活用した、新ビジネスの企画 を立案する実践演習による新たな**"事業アイデア"を創造**
- 卒業生との**"弱いつながり"**により、他社の知見を探し出し自 社の知見と組み合わせることで新しい事業の夕ネを生み出す



まとめ



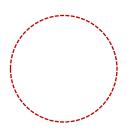
まとめ

AI・IoT・ビッグデータは素材や道具にすぎない

事業の戦略にもとづいたデータ戦略が大切

当グループの取り組みは日本企業の実験台

でも、一番大事なことは?



ビッグデータはこの会社の何に 貢献しているのか?



ありがとうございました